

平成 19 年度
社会福祉法人 福智町社会福祉協議会
事業報告書

(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 福智町社会福祉協議会

基本構想

『信頼と親しみのある身近な福智町社会福祉協議会をめざして』

～ともに歩む福祉のパートナー～

【総括】

平成19年度は、三町社会福祉協議会が合併し実質2年目の年となり、1年目の反省を基に運営理念・組織の運営方針に基づき事業を推進してまいりました。今年度は、三事業所の統合を行うことが最大の懸案事項であったため、三事業所統合委員会を立ち上げ、事業所統合に向けて取り組みを行いました。その結果20年度当初からの統合は果たせなかったものの、20年8月統合に向け準備がほぼ整い、行政の諸手続きを残すだけとなっています。またもう一つの懸案事項であった社会福祉協議会の安定した財政基盤の確立は、経費の縮減等に取り組み、ある程度の成果が見られたものの自立した経営には程遠く、19年度の実績を基に抜本的な意識改革と財政健全化計画策定による実行が不可欠です。また、行政や議会との意思疎通を図り、社会福祉協議会の役割の理解とあわせて総合的な支援をいただけるように最大限の努力を行っていくことが求められます。

事業全体としては、反省点があったものの、ある程度の成果が残せました。また、介護保険の盲点によりサービスが受けられないケースについては、介護レスキュー事業を今年度新たに創設し実施いたしました。住民の立場に立った事業の推進が信頼と親しみのある社会福祉協議会をつくっていくことをあらためて感じ、20年度に向けて小地域福祉活動を重点的に取り組み、地域から変えていくお手伝いを社会福祉協議会ができればと考えています。19年度は以下の重点項目により、事業を実施いたしました。

【基本計画に関する報告】

(1) 財政基盤の安定に資する事業の推進

19年度は、行政からの補助金も厳しく、また社会福祉協議会が行う自主財源確保も社会情勢の影響から思うように伸び悩み、単年度ではマイナス決算でした。総括でも述べたように抜本的な財政再建が急務です。安定した財源確保は、社会福祉協議会の行う事業に大きく影響します。今後行政や議会の理解を得られるような取り組みを行うとともに自主財源の確保に関する対策が必要です。また、職員一人ひとりが経営観念を持って事業を行うことが求められます。

(2) 住民意識に浸透した事業の効果的運用

事業を行うに当たって、その苦情の改善が事業を発展させると考え、19年度においてはその対応を図ってまいりました。その結果、食の自立支援事業では、前年度の実績を大きく伸ばし、住民にとって重要な事業として発展させることができました。

今後さらにそれぞれの課題を整理し、住民にとって利用しやすく効果のある取り組みを行ってまいりたいと思います。そのためには、各種機関や団体との連携や利用者の意見を敏感に感じ取るための手段と対応が必要です。

(3) 住民参加・協働による事業の推進

住民参加・協働による事業の推進は、社会福祉協議会における生命線であり、特に小域福祉活動は、社会福祉協議会の本来の役割を果たす事業です。今年度は、方城地区で行われている福祉委員の取り組みやミニデイサービスを赤池・金田地区に浸透するようモデル地区を設定し、各地区1箇所ずつ取り組みを行いました。この事業は、時間がかかる事業ではありますが、根気よく町全体に拡充していく必要があります。

20年度は、新たにごみ収集サポートネットワーク事業を絡ませ重点項目として取り組みを行います。また、今年度は、福智町ボランティア連絡協議会を発足させることができ、住民の住民による町づくりの基盤ができた年度となりました。

(4) 情報提供・収集及び総合相談事業の推進

今年度は、社協だより「きずな」を毎月発行し、新鮮な情報の提供と寄付金等の啓発を行いました。また、念願のホームページを立ち上げ、社会福祉協議会の情報や町内施設の紹介、相談機能を持たせるなど利用価値のあるものが完成しました。また、相談事業では、司法書士会の協力をいただき、より専門的な助言ができるような体制をとった結果、昨年度の相談件数より倍増し、その効果が如実に現れました。20年度は、さらに情報提供、相談機能を充実させていくとともに、情報収集の方法を検討することが必要です。

(5) 組織の機能化と情報公開

今年度は、必要に応じた部会・委員会を開催し、それぞれ担当する部門において協議をいただきましたが、協議が十分尽くされるまでには至りませんでした。職員間では、プロジェクト会議(係長以上)を月2回のペースで開催し、事業に対する共通認識と連携強化を図りました。また、長年継続しているサポーター会議(町内施設、医療機関、保健福祉環境事務所、包括支援センター等)を毎月開催し、他機関や施設との連携を図りました。今後は、事業所の統合を踏まえ、有効に機能する社会福祉協議会の体制と組織化が課題です。

(6) 先駆的及び住民が必要とする事業の取り組み

緊急時の日常生活支援事業として、「介護レスキュー事業」を試験的な取り組みとして実施いたしました。介護保険の盲点となり、サービスの提供ができない部分について、社会福祉協議会が訪問介護として支援していく事業であり、数件の対応例がありました。今後は、制度に適應できない部分において、住民が必要とするものについては、事業化の検討し実行して行くことが頼れる社会福祉協議会として必要であると思われます。

(7) 地域福祉活動計画の策定

19 年度に行政計画である「人権と福祉の町づくり総合計画」が策定され、その中で福智町の地域福祉を推進するために、社会福祉協議会の果たす役割が大きく取り上げられています。福祉のまちづくりを行うために、この行政計画を柱としながら、社会福祉協議会の取り組みを中長期的に見据えた「社会福祉協議会地域活動計画」の策定が必要であるため、今年度策定の計画を行いました。事業所統合を優先させたため思うような取り組みができず、20 年度において策定の取り組みを持ち越すこととなりました。

(8) その他既存事業の効果的な取り組み

学童保育「かえるの学校」やふれあい安心箱配布事業、移送サービス、合同慰霊祭、生活福祉資金貸付事業、福祉教育読本の配本、ふれあい健康ウォーキングなど既存事業を引き続き実施いたしました。既存事業の中で住民福祉講座については、今まで協力いただいていた町の補助がなく実施できませんでしたが、20 年度においては、町のご理解をいただき実施を行える準備が整いました。事業一つ一つが必ずしも費用対効果で切り捨てられるものではなく、効率性を高めながら継続できる体制をさらに検討することが求められます。

実施事業の内容

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 財政基盤の確立と職員の資質の向上

賛助会員の募集と取り組みの強化

社協だより「きずな」にて毎月募集広報。社協情報「ふれあい」にて広報。
金田、赤池、方城の商工会を通じ商店企業へ直接郵送依頼。

賛助会員 43 件 (350,000 円)

寄付金の募集の強化

香典返し寄付者を社協だより「きずな」へ毎月掲載。

香典返し 195 件 (5,096,000 円) 一般寄附 27 件・募金 (1,008,266 円)

補助金・助成金・委託金の適正化

今年度の補助金助成率は予算額の 67.4%

収益事業の検討

プロジェクト会議にて協議中。

共同募金運動の強化と拡充・・・(資料1参照)

個別募金、法人(企業・商店)募金、街頭募金、イベント募金、学校募金、
職域募金を実施。

募金実績額 5,331,780 円。(前年比 100.6%)

居宅介護支援事業の見直し・・・(資料2参照)

今年度よりケアマネジャーを田川支部包括支援センターへ出向 2 名
ケアマネジャー数 3 人。

平成 20 年 3 月

要支援 1	11 人
要支援 2	11 人
要介護 1	45 人
要介護 2	8 人
要介護 3	9 人
要介護 4	4 人
要介護 5	6 人
利用者合計	94 人

訪問介護事業の見直し・・・(資料2参照)

移動ロス時間の調整によるルートの見直し。困難事例等の共通認識の育成と
問題点の克服を毎月のヘルパー会議にて実施。

訪問介護員数 26 人(臨時・登録含む)

平成 20 年 3 月

要支援 1	38 人
要支援 2	25 人
要介護 1	30 人
要介護 2	11 人
要介護 3	7 人
要介護 4	3 人
要介護 5	5 人
利用者合計	119 人

障がい者自立支援事業の見直し

制度改正のあおりを受けているため介護保険事業とあわせてルート等の効率化を図り、訪問介護事業と同じ対応にて実施。

利用者数（平成 20 年 3 月）

身体障害者 8 人。

知的障害者 1 人。

葬祭事業の取り組みの強化

利用者数 30 件（内 方城 28 件、金田 1 件、赤池 1 件、町外 0 件）

19年度	方城地区	金田地区	赤池地区	町外	合計
4月	2	0	0	0	2
5月	2	0	0	0	2
6月	0	0	0	0	0
7月	5	0	0	0	5
8月	2	0	0	0	2
9月	5	0	1	0	6
10月	0	1	0	0	1
11月	2	0	0	0	2
12月	2	0	0	0	2
1月	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0
3月	8	0	0	0	8
合計	28	1	1	0	30

金額	件数
0～150,000円	1
150,001円～200,000円	2
200,001円～250,000円	0
250,001円～300,000円	1
300,001円～350,000円	1
350,001円～400,000円	5
400,001円～450,000円	5
450,001円～550,000円	0
500,001円～550,000円	8
550,001円～600,000円	5
600,001円～650,000円	2
合計	30

祭壇		会葬用返礼		霊柩車	
特A	13	お茶400円	8	国産洋型	6
A	5	お茶700円	3	国産宮型	5
B	7	お茶1,000円	0	外車洋型	7
特別	4	金封セット	12	外車宮型	0
なし	1	ハンカチ	5	外車リムジン	9
		なし	2	外車スーパーリムジン	1
合計	30	合計	30	なし	2
				合計	30

葬祭 1人当たりの平均費用 449,460 円（最高 670,100 円、最低 89,750 円）

（ 2 ） 住民意識に浸透した事業の効果的運用

食の自立支援事業の実施・・・（資料3参照）

衛生管理の徹底を行い、食材の品質確保や価格の交渉を実施。

今後さらに品質確保とコストの削減を行いながら地産地消を推進する。

月曜日から土曜日の昼食及び夕食を提供。

配食数 年間 52,764 食（昼食 24,160 食、夕食 28,604 食）前年比 113.7%

1日平均 174.1 食、利用者数 188 人（平成 20 年 3 月現在）

福祉バス運行事業の実施・・・（資料4参照）

前年度と同様旧町で運行していた路線で運行。前年度に引き続き町内公共施設を回る福智町循環バスを運行。バスの老朽化の対応が課題（平成 4 年登録）

また、旧町でバス運用の性格が違うため、今後コミュニティバスとして統一し路線変更や運用の見直しが必要。

利用者数（年間）

循環線 9,477 人（1日平均 26.8 人）

赤池 19,786 人（1日平均 56.0 人）

金田 6,408 人（1日平均 18.1 人）

方城A 12,204 人（1日平均 34.6 人）

方城B 14,231 人（1日平均 40.3 人）

生きがいデイサービス事業の実施・・・（資料5参照）

今年度は、赤池（火曜・金曜）方城（月曜・土曜）金田（水曜・土曜）で実施。健康体操、絵手紙教室、書道教室、ビーズ等手芸、バスハイクを実施。

実施日数 301 日 年間利用者数 5,770 人 1回平均 19.2 人

(3) 住民参加協働による事業の推進

小地域福祉活動の実施（ミニデイサービス等）

方城地区で 11 箇所実施。赤池・金田地区にモデル地区 1 箇所設置し実施。
金田地区においては区長会にて説明。20 年度は重点施策として取り組みを行う。

福祉委員制度の充実と拡充

方城福祉委員会議（全体会 3 回、幹事会 3 回）及び新宮町小地域福祉活動研修会を実施。方城福祉委員 47 名。

今後赤池地区、金田地区に福祉委員設置が課題。20 年度は重点施策として取り組みを行う。

ボランティア連絡協議会の結成・・・（資料 6 参照）

平成 19 年 7 月 8 日（日）ボランティア連絡協議会発足。

会員数 22 団体、317 人。定例会議 6 回、臨時会議 3 回

河川一斉清掃実施。その他各団体により活動。

ボランティアコーディネーター機能の確保

現在は、福祉活動専門員が適宜兼務し行っているが、将来的に小地域コーディネーターと兼務した独立した職種として今後配置が必要と思われる。（町の人権と福祉のまちづくり総合計画に重要な役割として明記）

ボランティア養成講座の実施

今年度はボランティア連絡協議会の結成を中心とし、全体では実施せず、各団体にて実施（方城手話の会による手話講座、青い鳥による朗読講習会等）

小中学生ボランティア事業の開催

子どもボランティア清掃活動（車いすテニス大会会場 参加者 31 人）

ワークキャンプ（9/16・17 かなだふれあい塾にて 参加者 39 人）

(4) 情報提供・収集及び総合相談事業の推進

総合相談・専門相談事業の実施・・・（資料 7・8 参照）

毎月 赤池（第 1 土曜）方城（第 2 土曜）金田（第 3 土曜）で実施。

10 時 00 分～15 時 00 分

相談員 12 名。3 名体制で実施（司法書士を含む）

今年度より第 3 土曜日は、司法書士会会員による特別相談を実施。

相談件数 84 件（前年比 247%）

健康相談の実施

生きがいデイサービス実施日にあわせ看護師による血圧測定、健康相談を実施。

社協情報「ふれあい」の発刊

季刊誌として社協情報誌「ふれあい」3 回発刊。

社協だより「きずな」の発行

新鮮な情報の提供と福祉意識の啓発のため毎月発行。

視覚障がい者への情報提供の推進

ボランティアグループ「青い鳥」の協力のもと、視覚障害者へ町広報誌や社協情報誌をCDに録音し配布。CDダビング機デュプリケーターの導入(自治労組合寄贈)とCD再生機の整備をおこなう。

ホームページによる情報の発信と掲示板による相談機能

平成19年9月にホームページを立ち上げ、情報の提供を行う。また同時に相談機能もホームページ上で可能になる。

(5) 組織の機能化と情報公開

理事会・評議員会の開催・・・(資料11参照)

理事会4回開催。評議員会3回開催。

部会・委員会の開催・・・(資料11参照)

総務部会2回、地域福祉部会4回、在宅福祉部会2回

介護保険障害者部会3回、生活福祉資金貸付委員会3回

共同募金運営委員会3回

定例三役会の開催・・・(資料11参照)

定期的に三役会を開催。16回開催。

役職員研修会の開催・・・(資料11参照)

全職員へ救急救命講習会の実施。利用者に対するレクリエーション研修の参加。

行政連絡会の開催・・・(資料11参照)

担当行政と連絡会を開催。5回開催。

プロジェクト会議の開催・・・(資料11参照)

プロジェクト会議(課長・係長)20回開催。

各種研修会参加による自己研鑽と資格取得の推進・・・(資料11参照)

県福祉大会(1回) 人事労務管理研修会(1回)

筑豊ブロック研修(2回) 地域担当職員研修会(2回)

労働基準関係講習会(1回) 介護保険制度集団指導及び説明会(2回)

苦情処理研修会(1回) 救急救命研修(1回)

心配ごと相談研修(1回) 福岡健康隊研修(3回)

障害者自立支援システム研修会(3回)

田川地区介護事業者セミナー(2回)

身障相談員研修会(1回) レクリエーション研修(1回)

今年度資格取得者 介護福祉士1名、社会福祉士2名

職務・責務の明確化・・・(資料9参照)

事業所長・課長を配置した機構整備と職務分担表による職務を明確にする。
保健・医療・福祉実務者連絡会議(サポーター会議)の開催・・・(資料11参照)

毎月第3火曜日に開催。行政、医療機関、福祉施設、保健福祉環境事務所、
在宅介護支援センター、介護保険事業者等が参加し情報交換。12回開催。

田川地区社会福祉協議会連絡協議会の参加・・・(資料11参照)

総会1回、事務局長会議8回、専門員会議11回

介護支援専門員会議12回

(6) 先駆的及び住民が必要とされる事業の取り組み

介護レスキュー事業(緊急時の生活支援事業)試験的实施

介護保険の盲点となり、サービスの提供ができない部分について、社会福祉
協議会が訪問介護として支援していく事業を実施。

利用者数6人、利用者件数19回

(7) 地域福祉活動計画の策定

地域福祉活動計画策定(財政安定化計画含む)

今年度策定の計画を行いました但し事業所統合を優先させたため思うような
取り組みができず、20年度において策定の取り組みを持ち越すこととなり
ました。

(8) その他の既存事業の効果的な取り組み

ふれあい安心箱配布事業の実施

緊急時の持ち出し等に対応したケースで、今年度は方城地区の一人暮らし高
齢者世帯を主に希望者に配布。事後の対応要検討。

19年度配布利用者 方城地区69人、金田地区1人、赤池地区3人

子育てサロン日本語教室事業の実施

毎月第1～第3水曜日に実施。子育てや地域での生活等に悩む外国人親子の
支援事業。登録者15人(1回平均6人)

生活福祉資金貸付事業の実施

貸付申し込み件数4件(内訳:修学資金2件、生業資金2件)

難病救済基金事務事業の実施

未実施であり今後基金運用について検討必要。

戦没者・炭鉱殉職者・物故者合同慰霊祭の実施

8月25日 17時30分より 福智町中央公民館金田分館2階大研修室

参加者114名

フレンドシップツアー事業の実施

今年度は参加者不足のため中止。

生きがい・健康・交流事業の実施

方城迫地区でのコスモスフェスタに合わせ、ふれあい健康ウォーキングを開催。約3キロのコースを設定し、赤池・金田・方城のセンターから出発。

参加者に会場で使用できるバザー券を配布し親睦を行う。

10月21日(日)ふれあい健康ウォーキング 参加者 353名

学童保育事業の実施・・・(資料10参照)

夏休み期間中、母子父子家庭、共働き家庭の児童への事故防止や仲間づくり、協調性の育成とあわせ福祉の意識向上を図る。

7月23日(月)～8月24日(土) 赤池地区にて実施。参加児童45名。

住民福祉講座の実施

今年度は、町の委託金が予算化されず未実施。20年度予算化され実施予定。

福祉教育読本の配本

町内小学校5年生の児童に「ともに生きる」を配本。

272冊配本(教師分含む)

軽度生活支援事業の実施

介護保険非該当者で支援が必要な方のヘルパー派遣

利用者数11人(平成20年3月)

移送サービス事業の実施

利用者数 延べ人数88人。延べ利用回数125回。

金田在宅介護支援センター

金田地区の要支援者の安否確認、実態調査の実施。

ソーシャルワーカー等派遣数 延べ人数574人 延べ件数1,033件

在宅介護者リフレッシュ事業の実施

平成20年2月19日(火)実施。行き先：山口県川棚温泉

在宅介護者12人参加

福祉施設管理運営事業の実施

- ・ 赤池コスモス保健福祉センター
浴槽浴室ボイラー管理のみ実施。
- ・ 金田社会福祉センター
開館日数317日 入館者数14,119人 1日平均44.5人
- ・ 方城福祉会館
開館日数317日 入館者数11,363人 1日平均35.8人